

## 高齢者のテレビ理解に関する研究

## ◆キーワード

高齢化社会 テレビ理解 ザッピング

## ◆産業界の相談に対応できる分野

番組作り 視聴効果測定 映像による広報

教育学部 学校教育教室  
教授 村野井 均TEL 029-228-8309  
e-mail muranoi1@mx.ibaraki.ac.jp一言  
アピール

本研究は、高齢者に見やすい番組作りを解明し、高齢者のライフ・クオリティを向上させます。

## 研究概要

高齢者にとって、テレビは社会の動きを知る重要な情報源です。しかし、視聴者がリモコンを使ってザッピング（Zapping）をするようになり、これに対抗して放送局は番組を細切れにしたり、会話の途中にコマーシャルを入れたりしています。番組の区切りやつながりがわかりにくくなっているため、高齢者は番組の読み取りを間違いやすくなっています。

A1	B1	A2	C1	B2	A3	C2	B3	C3	A4
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

図1 今のテレビ番組の構造

人気のあるコーナーAを番組内に散らしてザッピングされないようにしています

本研究では、①高齢者の間違い方の実態を明らかにします。②番組分析を行い、構造が難しくなっていることを示します。③海外テレビ局の高齢者対策を調査します。④テレビ番組制作者と対話する場を作ります。

以上により、わかりやすい番組作りや高齢者に配慮した番組作りとは何かを解明します。

高齢者がテレビを読み間違ふとの報告を受けて、高齢者のテレビ視聴について回想法により34事例を集め分析したところ、以下の特徴が現れました(村野井, 2014)。

- 1, 新技術に対する知識の不足  
(C.G.を現実と間違ふ、再現映像がわからない)
- 2, 子どもと同じような間違い  
(テレビの中に人がいる、テレビから見られる等)
- 3, 高齢者独特の間違い  
(知識を持った上で役回りや演技を誤解する。音と映像の同時処理ができない)

このような読み取り方の間違いに対して、

- 1, 高齢者へ知識をどのように伝えるか
- 2, どのような映像ならば伝わるのか
- 3, 映像によって、伝わったのかどうか効果測定をして行きます。これにより、高齢者へ情報を伝達する場合の注意点を明らかにしたいと思っています。

一方で、日本のテレビはザッピング対策を行わず、一般視聴者にわかりにくい番組になっています。高齢者の研究をすることで、誰にとっても安心して見ることができる番組にして行きたいです。

何に  
使える?

高齢者が安心して見ることができる番組作りに利用できます。または、応用、発展が可能です。